

地域ぐるみで取り組みましょう

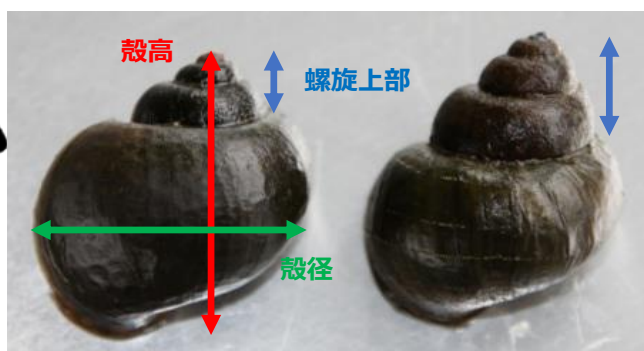
ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために

【春夏編】

- ・ 全国でジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の発生が増えています。
- ・ 春期からは薬剤散布や浅水管理などの防除対策を組み合わせ、移植苗の食害を避けることが重要です。
- ・ 地域ぐるみで取り組めば、さらに効果的です。



ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



ジャンボタニシ



マルタニシ



ヒメタニシ

- ・ 成貝の殻高は2～7 cm程度
- ・ 本貝は、他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じです。また、長い触角とピンク色の卵塊が特徴です。



用水路（水口）の卵塊



移植直後に食害を受けた移植苗



食害を受けやすい
入水口・排水口や周縁部（畦際付近）

- ・ 深水となった部分で被害が生じやすく、食害された場合には、欠株となります。
- ・ 田植え後、約3週間までの柔らかく小さな苗を食害し、特に稚苗を移植した場合に被害が大きくなります。
- ・ 本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいることがあるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないでください。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗いましょう。

● 防除対策の詳細は裏面を参照ください。

【春夏編】 ジャンボタニシの防除対策（移植水稻）

春夏期には、以下の防除対策を実施し、水路から水田への侵入を防止するとともに、移植苗の食害を避けることが重要です。



(注) 石灰窒素の使用回数は1回のため、秋期に散布した場合には、田植え前には散布できません。

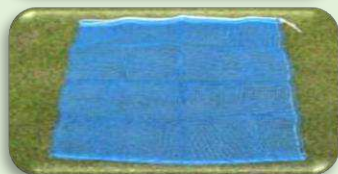
○田植え前の石灰窒素（発生量が多い場合に実施）

いつ・どのように

- ・水温が17℃以上の時期に、3～4日間湛水を保った後、石灰窒素を散布。
- ・稲への葉害を避けるため、代かき後2～3日（散布から7日）以上後に田植え。

留意事項

- ・魚毒性が高いため、漏水を防止し、散布後7日間は落水・かけ流しはしない。
- ・窒素成分を多く含むため、元施の量を減らす調整が必要。



○水口網の設置（水路に発生している場合に実施）

いつ・どのように

- ・田植え前の入水時から田植え後3週間まで、取水口・排水口に9mm目合い程度のネットや金網を設置し、水路で越冬した大型の貝の侵入を防止。

留意事項

- ・網の目が粗すぎると小さな貝がすり抜け、細かいとゴミが溜まりやすい。

○浅水管理（発生している場合に必ず実施）

いつ・どのように

- ・水深が浅いと貝の摂食行動が抑制されるため、田植え後約3週間の幼苗期の水深を4cm（理想は1cm）以下に維持。

留意事項

- ・水田内を均平に保ち、水深が深くなる場所を減らすことが重要。
- ・浅水管理が困難な場合は、薬剤散布との組合せにより被害を防止。



○田植え時の薬剤散布（発生している場合に必ず実施）

いつ・どのように

- ・田植え時に、貝の発生状況に応じて、効果が高い薬剤を全面散布、貝が集まる深水部分への重点的な散布等を実施。

留意事項

- ・散布後しばらくの間、確実な効果のため、止水管理が必要。

(例) **メタアルデヒド粒剤**：本貝に対する誘引性があり、摂食による殺貝効果がある。

磷酸第二鉄粒剤：有機JAS規格に適合し使用回数に制限がなく、摂食による殺貝効果がある。

チオシクラム粒剤：徐々に溶け出し、多雨時でも本貝へのマヒ効果が見込め、食害防止効果がある。